

令和4(2022)年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

本校独自の個別・協働・プロジェクト型を融合した学びや探究プロジェクト型の学びを通して、生徒のキャリア発達と希望進路実現を促し、未来社会を築く基盤となる力を身につけた「人財」の育成を図る学校

2. 中期的目標

1. 安定的な志願者の確保につながりブランド力の向上
地域の中学校や塾との関係を強化、及び新たな広報活動に着手するとともに、本校独自の教育の推進のもと、進学実績の向上を図る。また本校独自の教育内容の魅力を広く発信し、社会的評価の向上を図る。

2. 多様な進路選択のためのプログラムの構築
生徒の自己肯定力の向上を図る様々な取組を企画し、生徒個々に応じた多様な進路の実現を図る。

- ①新教育の徹底と発信
- ②第一志望進路実現100%
- ③募集の安定
- ④安心安全な学校の構築
- ⑤働き方改革の推進

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2022(令和4)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・昨年度、高評価の項目が増加し、多くの項目において、過去5年間で最高の評価であったが、今年度も高評価が持続している。 ・一方で、相対的に低めの評価だった項目も改善が見られている。 ・今年度も、担任指導に対する評価は非常に高かった。また、安全な学校生活の項目も極めて高い評価となった。 ・コロナ禍における行事への評価も大きく改善された。</p> <p>○保護者 ・保護者の学校推薦度は昨年度大きく向上したが、今年度はさらに向上し、高い評価となっている。 ・生徒と同様、学校行事の評価が高まり、安全な学校、コロナ対応、担任指導は極めて高い評価となった。 ・総合学園としての評価も、特に高3では、大学受験・進路指導の項目で高評価となった。 ・生活指導分野は全般的に高評価であった。 ・総合学園の長所については評価が低かったが、情報の共有や内部広報の活性化等の結果、改善が見られた。</p>	<p>○コロナのことがあり、海外に出かけることができなくなっていたが、国際教育についての現状はどうなっているか？ ⇒2022年度の年度末より、語学研修を復活させる予定である。今年度は、インドネシアからの高校の生徒が学校訪問をしてきて、リンガ・フランカとしての英語を通じて、お互いに意思疎通をはかることができた。単にこちらから海外で出かけることだけを考えるのではなく、海外から日本に来られる生徒との交流や、海外で活躍されている日本の方とオンラインでつながっての交流等も実施している。</p> <p>○学校はどうしても大学の合格実績が気になるのか？ ⇒教育の成果を示す一つの指標として、それを大切にしているが、あくまでも生徒たちが第一志望の進路に進めたかどうかを重視している。</p> <p>○教育の成果を目に見えることだけに限って扱うのはよくないが、評価という点では難しい面があるのだろう。生徒同士の関係や、先生と生徒の関係は、卒業してからもしっかりと続いており、生徒たちはよく育っていると評価している。</p> <p>○新しい教育を実施していくのは、教員採用が大切だと思うが、採用で何か工夫はしているのか？ ⇒10年以上前から、茨木・大手前の両方の中高で合同採用をしており、また必要に応じて、人事異動も実施している。働き方改革も、採用に大きく影響するので、毎年改善を続け、教員採用のための動画作成をし、HPIにあげており、再生回数もかなり多くなっている。</p>

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新教育による学力向上	<p>・現在取り組んでいる、校舎の特性を活かした「個別型・協働型・プロジェクト型の3つの学びの融合」と本校独自の探究「O-DRIVE」の発展と充実</p> <p>・新設の創造コースにおいて様々な経験・体験から始まり好奇心や興味関心につなげ、振り返りから得た発見や気づきを基に、協働・探究の学びを通して深めていく「探究的な教科の学び」を実践</p> <p>・教科で学んだ知識や視点を活用し、プロジェクトを通して結び付け、あらゆるものの見方、考え方をし、価値観を広げる「探究プロジェクト型の学び」を実践</p> <p>・本校教育の取り組み内容や魅力、成果を積極的に発信</p>	<p>(1) ・研修と内部広報、採用計画も含めて、3つの学びの融合と創造コースの学び、探究授業の3つを拡張するための教員体制作りを行う。</p> <p>(2) ・新設の創造コース教育推進部を中心に、創造コースの学びの実践とブラッシュアップを図り、並行してⅡ期・Ⅲ期に向けての準備を行う。</p> <p>(3) 探究メディアやSNSでの発信の充実と、中学と高校のTW入試の充実を図ることで、本校の知名度を上げ、教育の取り組みやその魅力と成果を広く発信していく。</p>	<p>(1) ・教科会議、教科主任会議での研修・対話の実施 ・教科主任会主催の授業研修開催 ・授業アンケート、学校評価アンケート</p> <p>(2) ・新たな評価基準の作成 ・教科横断授業の計画と実践 ・授業評価アンケート ・学校評価アンケート ・創造コース入学者数</p> <p>(3) ・HP閲覧数 ・学校評価アンケート ・学外からの教育視察数 ・中・高TW入試受験者数 ・入学者・非入学者アンケート</p>	<p>(1) コロナの影響により延期・中止となったこともあったが、教科主任会主催の全体授業研修を3回実施でき、次年度の計画も進んでいる。また、探究の授業を、すべての担任が関わって実施することが決まり、次年度に向けての準備が進んでいる。</p> <p>(2) 新設の創造コースの独自の教育内容と、その評価について研究を深め、教科横断的な授業内容と、プロジェクトの取り組みについて検討をし、次年度につながる実践ができた。創造コース2期生は、定員いっぱいの35名が入学した。</p> <p>(3) HP以外の独自のメディアにおける閲覧数も伸びてきており、それぞれのメディアの棲み分けも進んできている。教育視察の数もコロナの状況が落ち着いて以来、増えている。また、学外からの教育講演を頼まれる件数が増え、他府県からの関心が高まっている。</p>
2 第一志望進路実現100%	<p>・データ分析と情報収集に基づく手厚い進路指導・面談を実施</p> <p>・生徒・保護者の欲しい情報を適切に配信することにより、進路指導に対する生徒・保護者の学校への信頼の向上</p> <p>・各種進路説明会や進路イベントの充実</p>	<p>(1) 大学入試の大きな変化について生徒・保護者に周知し、生徒の第一希望の進路実現につなげる。タイムリーで手厚い面談の実施</p> <p>(2) 生徒・保護者目線での情報発信、進路の指針等の手引きの継続的発行と低学年向けのデータ作成</p> <p>(3) 各種進路説明会や進路イベントの充実</p>	<p>(1) ・生徒・保護者との面談 ・学校評価アンケート ・共通テスト受験者数 ・第一希望進路実現生徒数</p> <p>(2) ・データ集作成 ・低学年向け進路の指針作成 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現</p> <p>(3) ・生徒・保護者向け進路説明会の実施 ・学校評価アンケート ・イベント参加者数</p>	<p>(1) 進路指導部主導の進路指導が充実している状況である。一方で、各担任の指導力向上にも力を注いでいき、担任が自立した進路指導・キャリア指導を行う力量をさらに向上させる取り組みを行う。生徒との面談は充実したものとなっている。</p> <p>(2) データ集は、年度初めに予定通り刊行できた。中学・塾に配布した。従来の高3向けに加えて、高2向けの進路の手引きを新たに刊行した。高1版は新たに手を加えて、刊行する予定である。</p> <p>(3) コロナ禍での活動に工夫を施すことができたので、コロナ前よりも、丁寧な対応をすることができるようになった。動員数も増えた一方で、来校いただけなかった方への動画配信など工夫をした点で、学校評価アンケートの評価も高いものとなっている。</p>
3 生徒募集の安定	<p>・公立中学校および塾との良好な関係構築と維持を基盤とし、徹底した情宣で入試関連イベントの動員強化</p> <p>・積極的なイベント開催内容で参加者の志願度を高める。</p> <p>・HP・SNS・動画などのWebを活用した洗練された広報活動を展開する。</p>	<p>(1) 学外からの教育視察受け入れと出前授業の実施強化</p> <p>(2) イベントの内容の見直しを進め、確実に動員数増・志願者増につなげる。</p> <p>(3) Webを通じた募集広報・教育広報の両面の強化。ファンベースでの広報活動の強化。</p>	<p>(1) ・教育視察受け入れ数 ・本校からの出前授業実施数 ・入試志願者数・入学者数</p> <p>(2) ・入試イベント動員数 ・志願者数・入学者数 ・毎年のアンケート調査結果のイベント内容への反映</p> <p>(3) ・HPの閲覧回数 ・HPへの投稿回数 ・イベントや入学者・非入学者アンケートの結果 ・イベント動員数 ・志願者数・入学者数</p>	<p>(1) 高校入試では、地元地域からの志願者が増え、安定した募集活動となっている。中学入試においても、地元からの入学がさらに増え、募集定員を満たしている。出前では、前年度の2倍以上の要請を受け、本校教育の発信をすることができた。</p> <p>(2) 中学・高校とも、各種イベントで安定した動員数を確保できた。また、イベントの内容だけではなく、Web関連での発信内容に対する評価も向上し、この数年取り組んできたファンベースの活動が成果としてあらわれてきていると評価している。高校で515名、中学で87名の入学者を得られた。</p> <p>(3) HP閲覧者数は安定して100,000～120,000/月ビューを数え、在校生の保護者やイベント参加の保護者の方からの評価も高い。非入学者の中にも、本校の教育内容を高く評価していただいた方が多くおられた。高校における専願者数増にもつながったと思われる。</p>

<p>4 安心・安全な学校づくり</p>	<p>・新しい生徒指導・生徒支援の在り方の検討・実践 ・学校医や外部機関との連携強化、継続的なコロナ対策 ・SSWの導入と人権・厚生部および各学年との連携強化</p>	<p>(1) 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を対話を通して検討、必要に応じた具体的なルールの見直しや生徒会組織の変更</p> <p>(2) 法人内での制度整備、学外関係機関との継続的な連携</p> <p>(3) SSWの導入と新たなSCの採用、人権・厚生部や各学年、管理職との連携強化</p> <p>(4) 人権・厚生部の正式分掌化、SCとSSWとの連携の強化</p>	<p>(1) ・教員間・生徒間・生徒と教員間の対話 ・生徒会組織の変更</p> <p>(2) ・スクールロイヤー相談 ・初等中等部との連携 ・部長・主任会での情報共有</p> <p>(3) ・問題行動・処分案件の件数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・リスク管理小委員会の開催 ・法人のリスク管理委員会との連携 ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) 生徒会5役員の他に、生徒会実行部を組織。コロナ禍で停滞気味であった行事の取り組みを活性化することができた。</p> <p>(2) 初等中等部との連携を継続。スクールロイヤー相談を積極的に行った。何か問題が生じる前の対策や、初期対応前の相談ができ、学校運営が安定した。</p> <p>(3) 学校評価アンケートの安全な学校生活という項目では、生徒・保護者共に極めて高い評価であった。ケース会議やいじめ対策委員会の積極的開催ができるようになり、管理職とも一体となってリスクマネジメントを行う体制がさらに強化された。</p> <p>(4) 特に新型コロナウイルス感染症について、頻繁に小委員会を開催した。法人との連携を密にし、安心・安全な学校づくりを進めた。生徒・保護者の満足度は極めて高かった。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>・土曜休業の運用体制の整備と労務管理 ・ICT等の活用による、会議・業務の効率化 ・外部組織との協働による制度改善 ・クラブ運営の体制整備</p>	<p>(1) 土曜休業の本格的な制度運用</p> <p>(2) ICT活用での、さらなる業務効率化、外部組織とのコラボによる制度改革推進</p> <p>(3) クラブ顧問の在り方を検討</p>	<p>(1) ・土曜休業制度の運用 ・イベントの運用体制見直し ・継続的な課題の洗い出し</p> <p>(2) ・学習推進部からの具体的な提案 ・学内における研修会実施 ・会議等の制度改定</p> <p>(3) ・法人との対話 ・クラブ顧問としての業務の整理、部活動指導員の制度整備、学外団体との交渉 ・教員への進捗報告と詳細な説明</p>	<p>(1) 土曜日にイベントが設定されている場合も、一部の教員に過度の負担がかからないように、イベント運用の方法を工夫した。完成した制度ではないと捉えているので、毎年改善を続ける姿勢で臨んでいる。</p> <p>(2) データの保管など、セキュリティ面での強化を含め、制度変更を進めた。学習推進部主催の研修や、会議等での連絡も実施、会議の回数減や、その進め方についても改善を行った。</p> <p>(3) 法人が理解を示してくれたことが、大きかった。学内の働き方改革において、最大の課題であったので、年度の初めから動きを作り、次年度からの制度運用のスタートの準備を進めた。他校との情報交換においても、より進んだ制度設計ができたと評価している。</p>